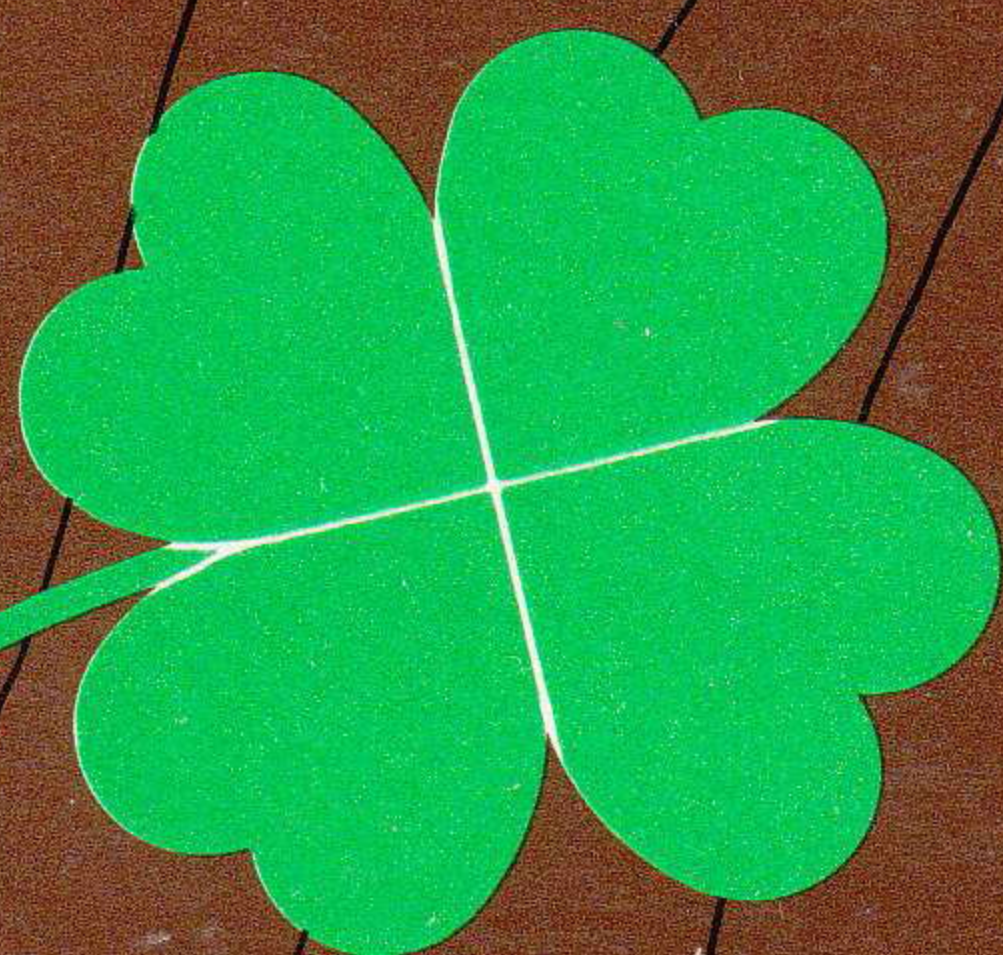
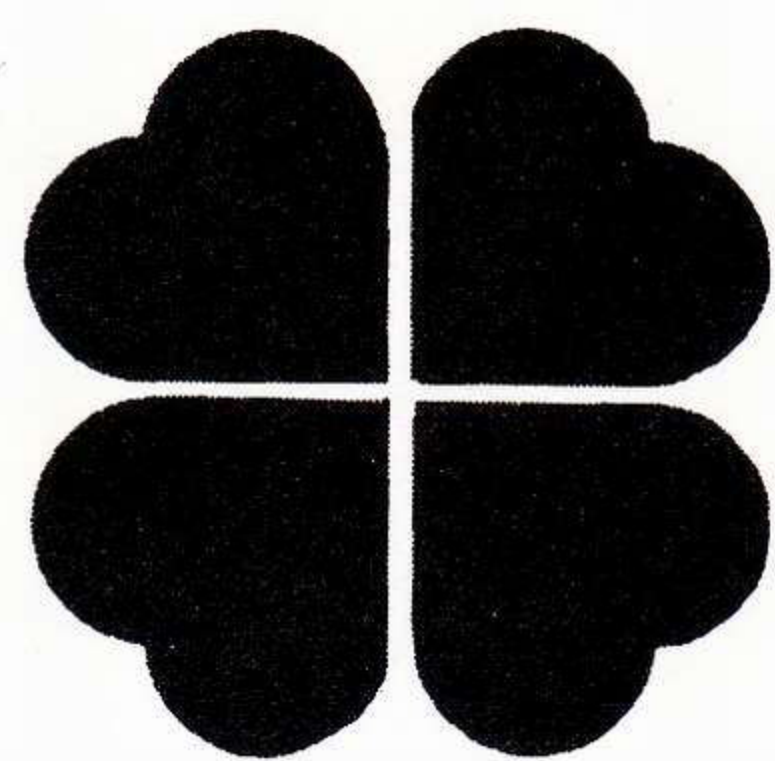


THE 15TH JOINT CONCERT OF UNIVERSITIES IN OSAKA



第 15 回
大阪四大学
交歓演奏会



1980年6月18日(水)18時30分
森ノ宮ピロティホール

主 催
大 阪 四 大 学 合 唱 連 合



御挨拶

本日はお忙しいところ、第15回大阪四大学交歓演奏会にお越し下さいまして、誠にありがとうございます。

在阪の四つの大学によりますこの演奏会も、第1回が1962年のことと申しますから、既に19年目に入ろうとしている訳です。創始期当時は学生運動華やかなりし頃で、その為に中断を余儀なくされたこともありました。その後四大学は再び甦えるのですが、私達が日頃何気なく接している四大学にしてもこの様に数々の波乱を乗り越え、その上に今日の演奏会があるのだと思うと、少なからず私達は月日の重みというものを感じ、ステージにもまた力が入るのです。

今回はステージを新しく森ノ宮ピロティホールへと移し、また当四大学のメインステージ合同演奏には、京都エコーの浅井敬壹先生に指揮をお願い致しました。そして、これまでの伝統の集大成、またこれからの4大学の発展の幕明けにふさわしい演奏会にと、一同精一杯唱い上げんと考えております。私達の新たな門出に対する心意気を今宵のステージより感じ取って頂ければ幸いと存じます。

また、この演奏会の為に御指導、御協力を賜りました先生方、関係者各位に御礼申し上げますと共に、この演奏会をここまで築き上げてこられた諸先輩方に心より感謝申し上げます。

折しも80年代を迎え、又もや時代は激動の様相を呈しつつあります。しかし、世相がどうなろうとも、我々のステージに賭ける情熱の消えぬ限り当演奏会は、永遠に続けられ、発展し続けることでしょう。

Program

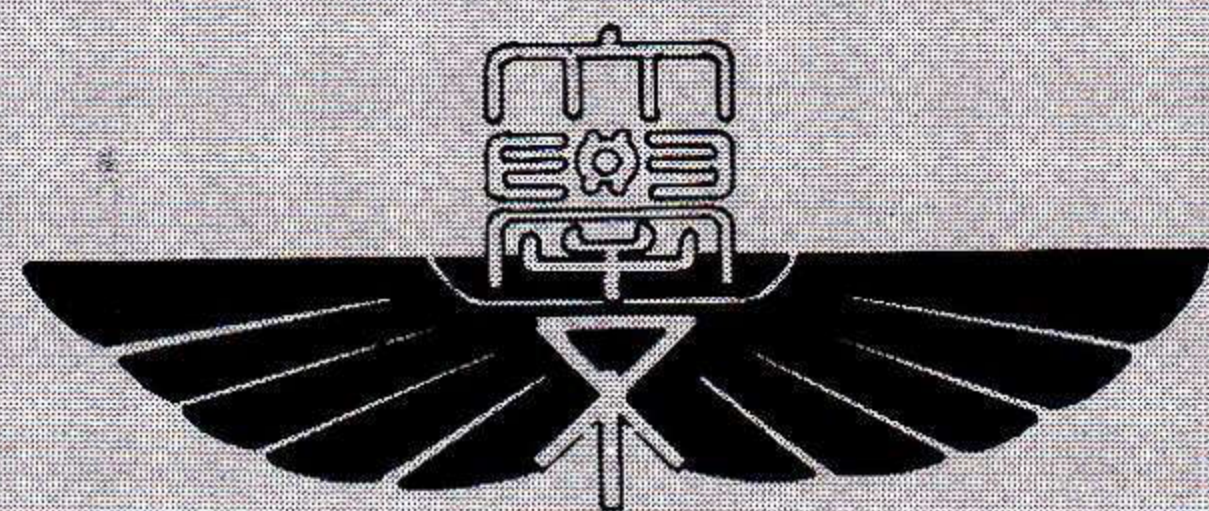
エール交換

I 大阪市立大学 グリークラブ

Deutschen Messe

1. ZUM EINGANG
2. ZUM GLORIA
3. ZUM Credo
4. ZUM OFFERTORIUM
5. ZUM SANCTUS
6. NACH DER WANGLUNG
7. ZUM AGNUS DEI
8. SCHLUSSGESANG-DAS
GEBET DES HERRN

SCHUBERT 作曲
島川正行 指揮



II 大阪府立大学 グリークラブ

「日本民謡」より

ソーラン節(北海道)
南部牛追い歌(岩手)
デカンショ節(兵庫)
黒田節(福岡)
五木の子守歌(熊本)
八木節(群馬)

渋谷太郎 指揮
山田典昭 樽
和田真一 ピッコロ

(樽、ピッコロ 大阪府立大学大阪女子
大学合同オーケストラ)



INTERMISSION

司 会
山内恵子

夏の到来と共に今年もやってきた四大学の演奏会
総勢200名の男たちのくり出す音楽。

さわやかな音楽、軽快な音楽、重々しい音楽、迫
力ある音楽。そのどれもが、今宵のステージでく
り上げられるだろう。

Ⅲ 大阪外国語大学 グリークラブ

Negro Spiritual より

1. Didn't my Lord
deliver Daniel ?
2. Crucifixion
3. Little David Play on
yo' Harp
4. Were you there
5. Ain't that a good
news
6. Soon Ah will be
done

北村照夫 指揮
井上郷子 他 編曲

Ⅳ 大阪大学 男声合唱団

草野心平の詩から

1. 石家荘にて
2. 天
3. 金 魚
4. 雨
5. さくら散る

草野心平 作詩
多田武彦 作曲
平松正嗣 指揮

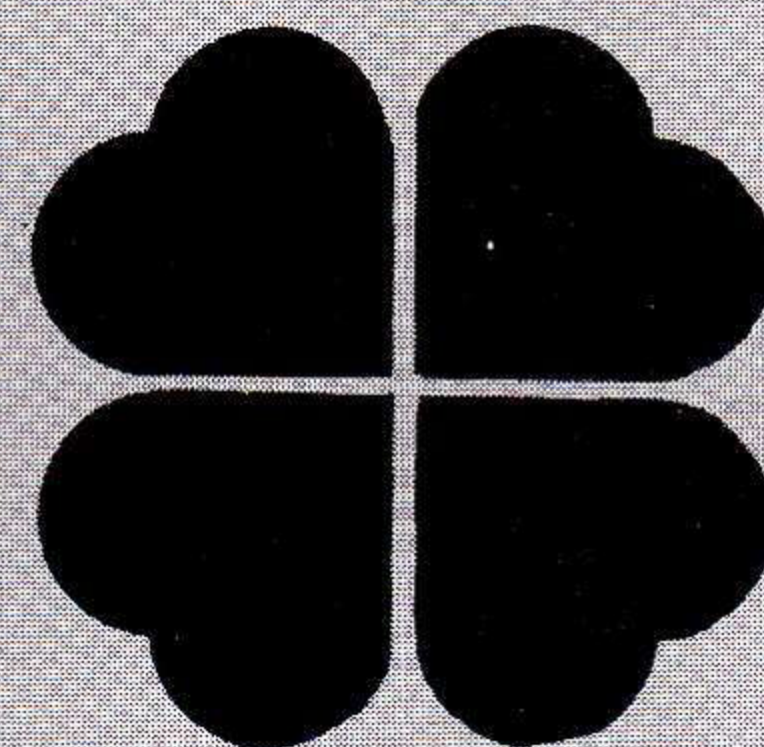
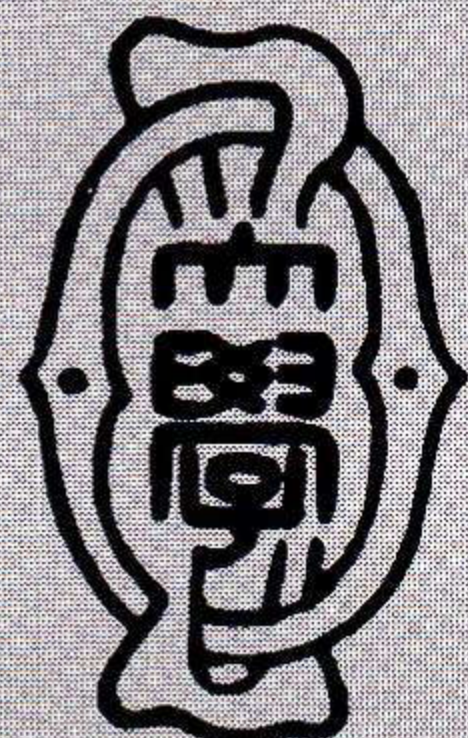
V 合同演奏

「枯木と太陽の歌」

1. 枯木は独りで唱う
2. 花と太陽の会話
3. 冬の夜の木枯しの合唱
4. 枯木は太陽に祈る

石 井 勲 作曲
中田浩一郎 作詩

浅井 敬壹 指揮
山本寿太郎 伴奏



曲目解説

1. Deutschen Messe

大阪市立大学グリークラブ

シューベルトのドイツミサ

指揮 島川 正行

シューベルトの伝記を読まれたことのある方は御存知のことと思われるが、彼はカトリックの信者であった。当時のオーストリアは神聖ローマ帝国、ハプスブルグ家の主要領有地であり、その公認の宗教もまたローマ・カトリックなのである。

シューベルト自身にしても、幼少より宮廷礼拝堂の合唱団員を養成する目的のためのコンヴィクトに学び、またシュテファン聖堂の合唱児童でもあった。しかし、成人するに従って、シューベルトの信仰は教会の独断的教条主義に反発するようになり、それがミサ曲を作曲するときの典礼文の一部削除となってあらわれたりする。だが、それでも終生カトリック教徒であったことはかわりなかった。ちなみに、シューベルトは17歳の年に最初のミサ曲・ヘ長調を作曲して以後、その死の年までミサ曲を作曲している。

ところで、啓蒙君主として有名であったヨーゼフ2世は、教会音楽の平明化運動にも熱心で、典礼を固苦しく感じさせないものにするために、固有のラテン語の典礼文のかわりにドイツ語によるそれを用い、唱いやすく親しみのもてるメロディーを持つホモフォニックなミサ曲の成立を望んだ。そして、かねてよりのヨーゼフ2世の教会音楽平明化運動の共鳴者である、ヨハン・フィリップ・ノイマンは、プロテスタントのドイツ語典礼文とは全く違うテキストを自ら書き、シューベルトに作曲を依頼したのであった。

シューベルトによる作曲の完成は、1826年、彼が29歳のときである。

曲の内容をみると、メロディーは民謡調であり、和音の連結は円滑で、きわめて平易な手法で書かれているが、それにもかかわらず、シューベルトの天才的能力は、この簡易な外面をもつ合唱曲に抗し難い魅力を附与するのに成功しているのがわかる。一度きくだけで、全ての人はこの曲が好きになり、また誰もが唱ってみたいという気持ちになるのである。

ZUM EINGANG

Wohin soll ich mich wenden,
Wenn Gram und Schmerz mich drücken?
Wem künd' ich mein Entzücken,
Wenn freudig poch mein Herz?
Zu dir, zu dir, o Vater,
Komm ich in Freud' und Leiden;
Du sendest ja die Freuden,
Du heilest jeden Schmerz.

ZUM GLORIA

Ehre, Ehre sei Gott in der Höhe!
Singet der Himmlischen selige Schar.
Ehre, Ehre sei Gott in der Höhe!
Stammeln auch wir, die die Erde gebär,
Staunen nur kann ich und staunend mich freu'n,
Vater der Welten! Doch stimm' ich mit mit ein
Ehre sei Gott in der Höhe!

1. 入祭文(キリエ)のために

悲しみとなやみに耐えかねて、
わたしはどこへゆくべきか?
わたしの心が喜びにふるえるとき、
だれにそれを知らすのか?
ああ父よ、主よ、主よ、
わたしは喜びと苦しみときあなたにゆく、
あなたはわたしに喜びを与え、
苦しみをのぞきたもう。

2. 栄光頌(グロリア)のために

いと高き神に栄光あれ!
天使たちがそのように歌う、
いと高き神に栄光あれ! と。
地のわたしどもも又たたえる、
わたしどもは神の栄光の前に、ただ驚き喜ぶ、
世界の主よ! わたしは「いと高き神に栄光あれ」
と唱和する。

2. 日本民謡より

大阪府立大学グリークラブ

私達日本人なら、誰もが一度は耳にしたことのある日本の民謡をいくつか集めました。

大変有名な曲ながら、その合唱用に編曲されたものが、あまり演奏されていない（いろいろな理由もありましょうが）ように思われるのは、認識不足でしょうか。今回は、そのような曲も含め、民謡の特徴である郷土色も北海道から九州まで、わりと幅広く選曲してみました。

（実は、無責任極まりない団員どものミーハー的選択で、まとまりに欠けるとおっしゃるのも、ごもっともです。）

長年、歌い継がれてきた民謡のもつ、風味をだすことができますか、或いは編曲による新鮮さを感じていただけましょうか。大漁におわった、新人獲得戦線後、間もない今宵、ピカピカの一回生と、ボロボロの4回生という両極端なる二大勢力に加え、先輩面も板についてきた2、3回生の残党とがあいまって如何なる演奏をおきかせできますことやら。（願わくば、漸近安定して欲しい……指揮者の切なる希望です。）しかしながら平均年令もぐっと若返った今、必ずやエネルギーなステージをおおくりできると思います。 乞う御期待！

（御注意：目を閉じてお聴き下さい。下手な指揮と、居並ぶグリーメンは、皆様方のお目に毒です。）

八木節

群馬県民謡

頃は弘化の三年九月、秋の半に大小屋かけて、夜も昼間も分ちはなくて、勝負々々でその日を送る、もうらやむ大貸元よ、月にむら雲花には嵐、とかく浮世は変わりがありて、

ある日親分忠次をはじめ、二人ばかりの乾分をつれて、鹿沢村へと来かかる途中、のどが渇くとたち寄る茶店、茶飲話にはからずきた、いとも哀れな話をごさる。

土地の代官赤塚軍次、世にもまれなる悪役人で、民をしいたげ非道をなさる、床屋才助わずかなことで、罪もないのに牢屋の住まい。村の人々寄り集まりて、

そのや孝行の才助殿を、助けたさんと代官役所、哀訴歎願いたしたけれど、お金ださなきやだしはくれず、そこでいろいろ相談したし、そのや妹苦界に沈め、

お金ととのえ代官様へ、願いあげればとやかくいうて、金はただ取り才助ださず、村の人々怒ったけれど、先は代官こちらは百姓、泣きの涙で無念をこらえ、

非道日ごとに加わるばかり、これをきいたる親分忠次、髪は逆立ち歯きしりなして、天にかわって誅戮せんと、村へ帰って乾分を集め、同勢すくって若者揃い、

云々

3. Negro Spiritual

大阪外国語大学グリークラブ

「歌なくして霊の降臨なし」というアフリカに古くから伝わる諺がある。これは、ニグロにとって歌と神は生活に不可欠の存在だったからであろう。17世紀以来、奴隷としてアフリカ大陸から強制移住させられたことは、すでに周知のことだが、それではその彼らが何故征服者の神キリストを信仰するようになったのだろうか。勿論黒人に対する布教活動が盛んに行なわれたことも要因であるが、彼らがキリスト教を白人のもつ権力へ至る鍵と見做したことも大きな要因であろう。そして、文字を読めなかった彼らに対し、歌が聖書がわりに使われた。こうして、一見白人風の装いを持ちながらも、歌詞・リズム・和声の上から見て、故郷アフリカの音楽にのっとりたスピリチュアルが生粋のアメリカ音楽として創造されたのである。

南部の教会が奴隷制を正当化するために『この制度化での現世の苦しみには来世で屹度良い報いがある』といった教義を教えたこともあって、スピリチュアルには人生を悲しみに満ちたものとし、死を喜びあふれる解放とするモチーフが多く歌い込まれている。それらの受難の歴史が重なって、スピリチュアルは暗く悲しいものといった表面的な感覚で受けとめられがちであるが、実際には歌詞中に黒人独特のアイロニーとレジスタンスを含みとしている。悲しさの奥底に絶えず息づいている生命力・エネルギーを見落としてはならないと思う。退廃的な感傷ではないのだ。

「ジャズは隠語である」とは或る黒人ドラマーの言葉であるが、英語もろくにしゃべれず、アフリカの言葉もまちまちで、互いに苦痛を分かち合う言語を持たなかった彼らにとって、最も身近な方法は歌で、音楽で表現することだった。激しく熱っぽいものであればあるほど、悲しく聞こえるのだ。それでは我々のニグロはどうだろうか……。

Ain'-a that a good news

I got a crown up in a the kingdom

Ain'-a that good news

I'm a goin'to lay down this worl;

Goin'-a shoulder up uh my cross,

Goin'-a take it home a to my Jesus,

I got a robe up in a the kingdom,

Ain'-a that good news,

Good news, good news, My Lawd.!

A ain' a that good news.!

天国へ行ける喜びを素直に表現したテンポの早い曲です。

「僕は天国でかぶる冠をもらった。いい知らせだろう。

僕はこの世におさらばして十字架を肩にかついでイエス様のところへ持って行くんだ。天国へ行けば救い主に会えるんだ。いいだろう。」

4. 草野心平の詩から

大阪大学男声合唱団

作詩 草 野 心 平

作曲 多 田 武 彦

昭和36年（1961年）私は慶応義塾ワグネル・ソサエティ男声合唱団から作曲を依頼された。その前年、畑中良輔氏の指導を受けるや一躍、目を見はるばかりの名演奏をきかせてくれるようになったワグネルだから、こちらも充分腰を入れて書かなければ、と題材を探すうち、東洋的観念的抒情詩人としての一面をも持っている草野心平氏の幻想的絵画的な一連の詩を拾うことが出来た。

第1曲「石家荘にて」は、詩人が北支石家荘に立った時、その地の月蛾（遊女）を中心に描いたもので、茫漠とした平野の中の一都会での遊女の姿が異様なまでに寂しく美しく想像される。第2曲「天」は詩人特有の筆法で書いたもの。「五センチの富士」「青ブリキ」等の表現は、奇抜な中にもこの詩人の個性が躍動している。第3曲「金魚」、作曲するに当たって、私はこの詩に心酔し切っていた。「青みどろのなかの金魚を眺めていると、いつのまにかそれが支那火事のように見える。そしてその支那火事は……」と想像したとき、私の背中に快よい戦慄が起った。何という見事な表現だろうと思った。この詩一つが、私にこの組曲を作らせたといっても過言ではない。第4曲「雨」は気楽に読み流せる詩であった。言葉の烈しさやスケールの大きさが気にならないほど日本的な情趣に満ちた湯治場の雨の風景であった。第5曲「さくら散る」は、本来なら、終始ピアノニッシモで歌われる曲にしなければならない内容のものだが、詩の精神に反して、終曲としての「はり」を持たせてしまった。しかしながら終戦後見た、京都嵯峨野小倉山二尊院門前の桜の古木並木から一せいに舞い落ちた桜の花への郷愁は、この曲に十分活かすことが出来たと思っている。

（多田武彦記）

石家荘にて

范范の平野くだりて
サガレンの
潮香かぎし女
月蛾の街にはいり来れり
白き夜を
月蛾歌わず
耳環のみふるえたり

ああ
十文字愛憎の底にして
石家荘
沈みゆくなり

金 魚

あおみどろのなかで
大琉金はしずかにゆらめく
とおい地平の支那火事のように
支那火事が消えるように
深いあおみどろのなかに沈んでゆく

合歡木の花が落ちる 水のものに
そのお白粉刷毛に金魚は浮きあがり
口をつける

かすかに動く花
金魚は沈む
輪廓もなく 夢のように
あおみどろのなかの朱いぼかし
金と朱とのぼんぼり

合同演奏

5. 『枯木と太陽の歌』

合同曲を振るにあたって

久し振りに男声合唱を振るチャンスを与えてくれた四大学の諸君と御推薦下さった山本先生（本日伴奏をして下さる）に心から感謝を致します。

今回選曲した「枯木と太陽の歌」は私が同志社グリーンクラブの指揮者をしていた20年前に東西四大学の合同ステージで木下保先生に指揮していただいた思い出の曲です。いつかチャンスがあれば振ってみたいと思っていました。

「この作品は、孤独なる人間の、人生に於けるつきつめた哀歓といった人間だれにでも通ずるであろう内容を歌っています。（作曲者のことば）作曲者の石井歓先生（全日本理事長）は作曲当時（1956年秋）「私たちが、日々人生に於ける美しさの発見を重ねていくように、最近の私にとっての新しい経験は男声合唱のみに存在する特殊な美しさに接したことでありました。そしてその美しさ、その力強さ、表現の幅の広さといったこれらの数々の魅力に、否応なく引きづられて創られていったのがこの作品なのです」と述べておられます。

この男声合唱のみに存在する特殊な美しさを今夜少しでも表現出来たら最高の喜びです。本番が待遠しくてたまりません。

日本指揮者協会会員 浅井 敬 壹
関西合唱連盟理事

枯木は独りで唱う

枯木は独りで唱う
枯木は独りきりで唱う
枯木は独りなのだ
枯木は独りきりだよ

こよい
今宵の月の出に
夜空に向かって
心こめて唱うよ
いのち
生命の限り叫ぶよ

きれいな月の夜だ
悲しい祭りだ

大地の深い眠り覚めよ
枯木は思うさま唱うよ

石井 歓 作曲 中田浩一郎 作詩

地軸をふるわせ 星にもとどけと
枯木は すべての思いこめて
夜空に向って 唱うよ

神への願いだ
神への祈りだ

襲うは くろかけ
悪魔の 怒りだ

とどろ
轟く かみなり
きらめく 光りだ
大地は狂うよ
この世の終わりだ
天地は裂けるよ

Ha ha ha ha ha ha

枯木よ折れるな
枯木よ折れるな

悪魔に打ち克て
消え去れ くろかけ

枯木は独りで唱う
枯木は独りきりだ
独りで唱うだけだよ
ひとりでひとりで……

PROFILE



客演指揮者 浅井 敬壹

昭和14年10月24日、京都に生れる。4才の時、満州に渡り沈み行く真赤な夕陽に向かって日劇のワンマンショーを幼な心に夢みて8才で日本に引き上げる。中学生3年の時、急病の先生に代って学芸会で指揮者としてデビュー、堀川高校から同志社大学に進み、同志社大学グリークラブの黄金時代を築く。卒業後、合唱団京都エコーを結成し現在に至る。この間コンクールやレコーディングに合唱指揮者として活躍。天逝の才能で創り上げる音楽は他の追随をゆるさない。

現在、関西合唱連盟理事、京都府合唱連盟副理事長、合唱団京都エコー・音楽監督・常任指揮者・団長、住友金属混声合唱団・常任指揮者、全日本指揮者協会会員である。



ピアノ伴奏 山本寿太郎

昭和28年大阪音楽大学ピアノ科を卒業。ピアノを神沢哲郎氏に、作曲を清水脩氏に師事。現在奈良県合唱連盟理事長に就任している。昭和47年、52年奈良県文化会館においてピアノ・リサイタルを開催した。

混声合唱団“陽声会”と女声合唱団“陽声たまゆら会”を主宰している。陽声たまゆら会は関西合唱コンクールお母さんコーラスの部で3年連続ダイヤモンド賞を、一般の部で銀賞を受けた。

大和銀行合唱団の専任伴奏者であるほか、指揮、伴奏など多方面にわたり活躍している。

クラブ紹介

大阪市立大学グリークラブ



市大グリーは今宵、ドイツミサに挑戦いたします。そこで我がグリーンメンの持つ信仰、宗教について書いてみたいと思います。

Part I. 宗教—近頃部室に生じた新興宗教— —教義グリー黙示録より抜粋—

「…1998年7の月、ノストラダムスの伝へし天より降り来たるものは大魔王にあらず。其は『えべっさん』なり…（中略）…人類狂喜し、笛を競ひて買ひ求め其を迎えんと欲す。竹林荒れ果て、笛は高騰し、笛の常食たるパンダなど生き永らへることを得ず。『えべっさん』、パンダを死滅の道へと追ひ遣りて、自らをしてぬいぐるみと化し、全人類のアイドルとならむと欲せり…（中略）…今宮戎は聖地なり。聖都難波には巡礼集ひ来たりて高らかに唱和せり、*“商売繁盛笛もてこーい！”*…（以下略）」

Part II. 儀式—グリーンメンにとってコンパとは宗教上に於けるミサ以上に伝統と儀式に満ちた大切なイベントなのです—

市大グリー約50名、本日はコンパの為キタの某ビヤガーデンへとやって参りました。時既に午後5時を回り、部長の音頭でまずは乾杯ノ約5秒、酒乱で名高いベース某は大ジョッキをテーブルに置き、悲し気に「こんなもん水や」とつぶやいております。見ると、彼のジョッキは殆んど空っぽ。その横のトップ某は一口飲んだだけで真赤っか、テーブルにうつ伏せてあえいでおります。料理が運ばれるや否や、番外地ことバリトンのテーブルは

修羅場と化し、一瞬の後にはお皿は空っぽ。

のっけから緊迫した雰囲気の中で始められたコンパですが、20分もたちますと春歌などが乱れ飛んだりしていいよ座も乱れてまいります。しかし、一回生はのんきに笑ってはおれないのです。さあ、始めました、あの『恐怖の四拍間』です。これは、一回生が自分の飲み残したビールを四拍間で全部飲み干さねばならないという伝統ある儀式で、成功者には惜しめない拍手とおかわりが贈呈され、失敗者にはペナルティーのビール追加と再ゲームが義務付けられます（結局一回生にとっては同じことなんですが）あちらこちらで一回生諸君の涙ぐましい健闘が繰り返されます。

各人が勝手なことをしはじめ、隣の席のおじさんにからむ奴まで出るようになるとそろそろお開きです。ここで突然響きわたる府大エール、負けじと応える神大エール。公衆の面前で春歌をがなりたて、痴態の限りを尽くした我がコンパの中に市大という文字はないのです。罪はみんな他の大学に—この伝統的精神に乗っとり、私達酔っ払い市大生は最後に「府大バンザーイ！」と叫び、本日のコンパも華麗にその幕を閉じたのでした。

このように日頃信心深い私達ですが、今宵は全員が真剣に心をこめてミサ曲と取り組みます。まずはお聴き下さいませ。

（なお、一回生の半数近くはあのコンパの後の二次会でフツ倒れたそうです）

大阪市立大学学生歌

一、聞けや大和の清流に

久し歴史の足音を

今担いゆく若人の

果てぬ希望の前進を

吾等尽くさんその使命

二、見よや明けゆく日の本の

自由の光照らす世を

叡智に冴ゆる眼もて

そびゆ科学の殿堂に

吾等究めんその真理

大阪府立大学グリークラブ



皆様、長らくお待たせ致しました。年々高齢化の進む府立大学グリークラブも、ついに今年、大量のフレッシュマンを迎え、若返りを図って参上いたしました。

昨日、部屋のロッカーから、『第一回大阪四大学交歓音楽会』なるパンフレットを発見し、読みふけておりました。考えてみると、この第一回の四大学演奏会は、今年の新入生が、産声をあげてまだ一年しかたたない頃に催されたこととなります。(ただしこれは、現役ではいった新入生の場合のはなし。)随分昔の事のように思えますが、紹介文を読んでみますと、各大学のカラーは、まったく変わっていないのに驚きます。

さて、今年の府立大学は、「好・騒・酒・三拍子揃ったグリー」をモットーにしています。

『好』……歌が好き、麻雀が好き、そして何よりも、文字どおり女の子、だあい好き。皆様ステージからの熱い視線に御注意を。

『騒』……指揮者などは、まったく無視しており、迷惑顧みず、歌いに歌いまくって大阪中を騒音、いいえ美声の渦に巻き込みます。

『酒』……「酒に交われれば赤くなる。」の格言の如く、酒には目のない奴ばかり。今宵のステージは黒田節・ソーラン節、etc. やはり歌には、お酒が付きものですね。

去年かわいい一回生も、今年は少々年寄りくさい二回生。常に若い男を追い求める上級生が、射落したフレッシュボイスは約20名になりました。Child Voiceのトップには、High“C”の出る超人。最も女好きのセカンドには、去年のセーラー服好みに続き、年上好み男。バリトンには、メガネのかわいいchanが、メロディーを歌えないとも知らずに。……そして去年とガラリとかわって若返ったベースも、一味違います。合ハイ無遅刻無欠勤の四人衆。あ～恐ろしや。

しかし、これらのピカピカの新入部員が、府大グリークラブの黄金期を再建してくれるのも、間近かだと確信し、我々四回生は、雨のように静かに隠居させていただきます。

さあ、新生府立大学グリークラブの出帆です。どうぞ心ゆくまでお聴きください。

大阪府立大学学生歌

一、朝陽に光る海原の

風さわやかに吹きなびく

河内野原にそびえ立つ

我が学舎のその名こそ

大阪府立

いざいざ栄あれ

我等の大学

二、真昼の陵の常盤木に

百舌鳥たからかに鳴き渡る

古き歴史の跡にして

我が学舎のその名こそ

大阪府立

いざいざ栄あれ

我等の大学

大阪外国語大学グリークラブ



わが外大は昨秋、上本町八丁目のスラム化した旧舎を捨て、箕面の山奥に新しいキャンパスを構えました。以前とうってかわって、美しく、広々とした学内なのですが……とたんにそわそわ、落ちつかなかったのがグリー部員たちでした。何しろ、これまでゴミだめのような部室にたむろし、物置きのような教室で半音程ずれたピアノを使って練習してきたところへ、急に近代的な建物をあてがわれても、突如日光にさらされたモグラみたいなもの、カルチャー・ショックに堪えられず、口をパクパクするばかりでした。

最近ようやく、部員たちも近代文明に慣れてきましたが、上八学舎を知る者には、どうしてもシックリこないところが残っている気がします。

一方、まわりはいよいよ女子学生がふえ、女子大化への道を確実に歩みつつあります。その影響か、女子ばかりでなく男どもの中にも色とりどりのファッションに凝るものが急増、……見とって疲れまっせ。

で、我々グリー部員は、ますます少数化する男子学生の中から新入部員を獲得すべく努力し、見とって疲れる

ようなハイカラな奴らを横目でにらみ、野暮で押し通しているのです。

さて、今年も、「またか」といわれるでしょうが、そうです、また黒人霊歌を歌います。もう50余年先輩たちから引きついで歌ってきたことになるでしょうか。

実は、この黒人霊歌こそが我々外大グリーの性格を決定づける大きな要因であると考えています。というのは、新入部員たちは、入部すると、この四大学に向けて、早速黒人霊歌の練習をさせられるわけで、メメッチイこぎれいな曲でなく、迫力があり、パワーとボリュームがあり、強烈なリズムがあり、そしてそれらの奥に秘められた哀愁、奴隷たちの血と汗と涙……とにかく大声をはりあげ、自分の感情をブツつけることの繰り返しが練習の基本となり、ここに、どうにもとりかえしのつかない、外大グリーの性格が形成される次第です。

年々、色あいが変わっても、外大グリーにどこか一本変わらず流れつづけるものがあるのは、こんなところに原因があるのではないかと思います。

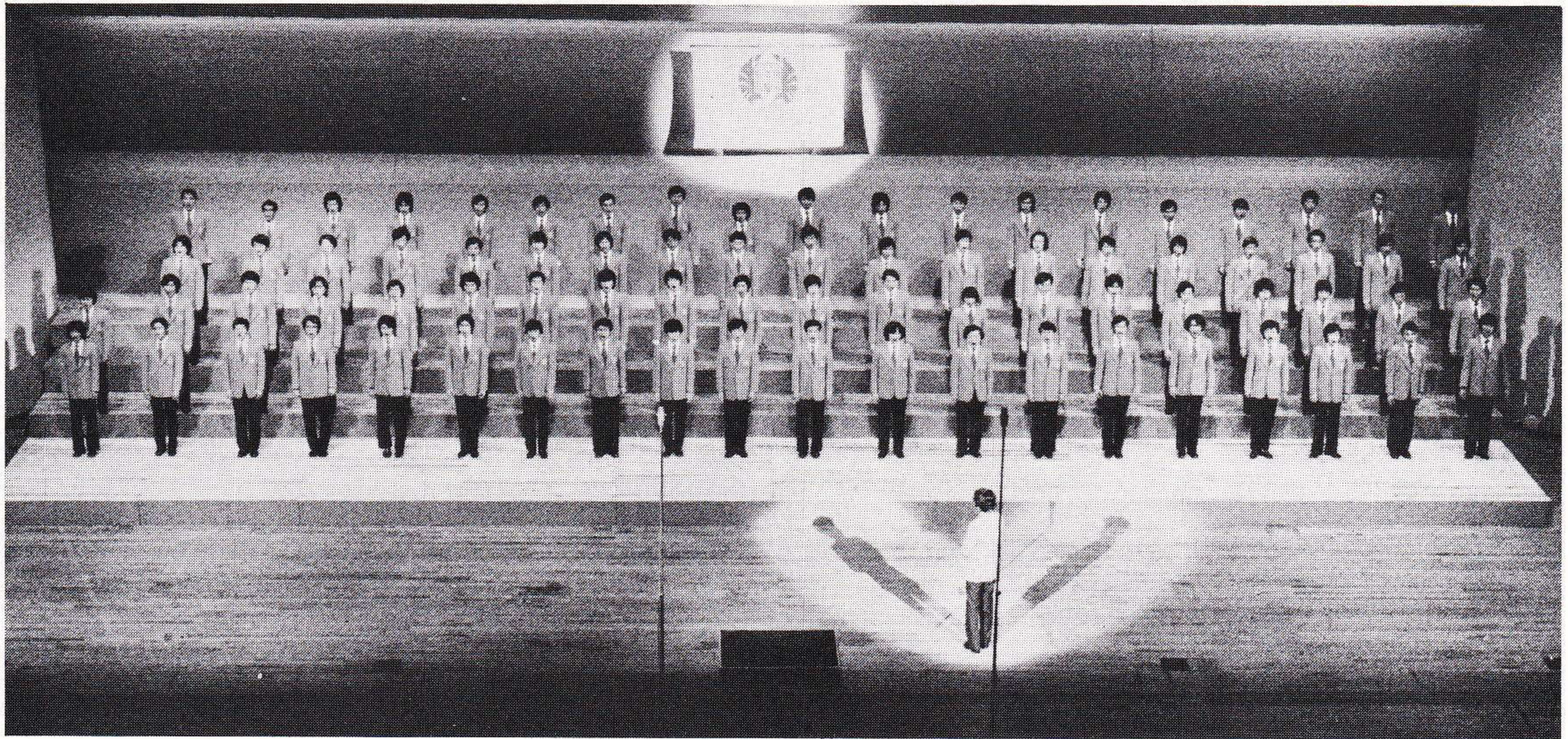
大阪外国語大学学生歌

Gaigo will shine tonight
Gaigo will shine!
Gaigo will shine tonight
all down the line!
Gaigo will shine tonight
Don't they look fine!
When the sun goes down
and the moon comes up
Gaigo will shine,
Gaigo will shine!

Varsity

Varsity! Varsity!
Osaka Gaikokugo Daigaku!
Praise to thee we sing,
Praise to thee our alma mater
U. Rah Rah!
Osaka Gaidai!

大阪大学男声合唱団



まいど、大阪大学男声合唱団でおます。

例年になく永い冬をのり越えて、今年も皆様の眼前に臆面もなく顔を表わして参りました。新しい顔と古い面を織りまぜての本年度初お目見えは、歌舞伎で云えば、顔見世興行の初日、ステージの前列に神妙な様子で並んでいるニューフェイスはいかがでしょうか。もっとも、合ハイ等々…では、すでにフル顔になっている手練者もいるようで『あら、あのコ坊やだと思ってたけど…（青ブレザー着ると）…やっぱりカワイイ！』なんちゃって、4年にもなって未だに合ハイのジョンソン（三振王）を続ける筆者ならでは察知できるようなことを思っておられるむきもあるのでは…しかし、そこはフレッシュマン。阪大男声メンとしての初舞台に、やはり緊張しているはずなんです。

ところで、このフレッシュマン諸氏、実は古い面の我々にとって、大いなる天敵でもあるのです。おおよそ、“かわいい”“無邪気な”などという形容詞や形容動詞は、まるで意味をなさず、彼らに使用すること自体これらの言辭に対する冒瀆ですらあると筆者などには思えてきます。例えば、あの新歓コンパ、酒が入ると人間は本性を暴露すると申しますが、一晩中チョン切れたトカゲのシッポ

のようにのたうちまわり《おかげでけられた上級生もいる》暴れるヤツ、はたまた腹の皮がよじれるほどひたすら笑う幸福な人、それにやたらと上級生にからみついて離れないスッポン人間…と、思い出したら、涙が出るほどおぞましい連中でおます。

でも、これは我々古い面も、かつてやってきたことで、どこもかしこも元気ハツラツの新しい顔の登場によって、団に対するイメージを動揺させられる上級生のグチなのでしょう。昨年も四大学演奏会の団紹介で述べておりましたが、この新しい顔の新入生こそ、我が国を創造的に破壊する革新者（イノベーター）であり、そして彼らが上級生となる時この新しい顔が団の“顔”となり、我が団のカラーを形成するのです。たくさんの紙面を費して、実に下らぬことを述べたようですが、筆者も3年前にそうであったように、この四大学の演奏会は、新入生にとっての初舞台であると同時に、我々上級生にとっては、初心を確かめさせる機会として、ただそれだけだからこそ、重要なステージなのです。

本年度、初めてのステージにしては、非常に難かしい（演奏者にとって）曲ですが、ゆっくりお楽しみ下さい。では、……

大阪大学学生歌

一、生駒の嶺に朝影さして

緑風さやけき銀杏の木蔭

若きいのちは力あふれて

歌ぞおほらに望みはるけし

叡智の泉掬みてつきせず

ほこりあり真理の岡べ

二、浪速の浦に夕潮みちて

葦間にこもる遠きうつし世

古きいさをは今につたへて

讃えよ明日の栄えはてなし

思索の小径もとめてやまず

ほまれあり自由の岸べ

MIE MEMBER

大阪市立大学グリークラブ

部長 倉田 友英 指揮者 島川 正行

Top Tenor

菱川 義章 (工4)
滝野 圭司 (商3)
小林 庸一 (経2)
植村 正昭 (工1)

☆高橋 毎彰 (文4)
西村 謙一 (経2)
天野 英樹 (商1)
藤岡 琢志 (理1)

栗島 正憲 (工3)
森 章 (商2)
嶋村 浩一 (経1)

Second Tenor

☆鎌谷 正信 (商4)
榎村 寛之 (文3)
高橋 浩 (文1)
渡辺 隆毅 (文1)

上川 徳朗 (経4)
松本 徹男 (文3)
上柴 克 (文1)
加来 良行 (文院)

倉田 友英 (経4)
池田 淳 (理2)
斉藤 修一 (法1)

Baritone

吉本 仁朗 (商4)
☆下垣 直哉 (法4)
宮崎 靖 (商3)
菅原 康浩 (法1)
日比 俊文 (商1)
桐山 厚志 (法1)

倉岡 志朗 (経4)
陳 忠信 (商3)
川野 晴生 (商2)
田中 成和 (経1)
鳥山 孝之 (商1)

島川 正行 (経4)
富野 清 (経3)
本間 健二 (経2)
西田 晋一 (商1)
小林 勝明 (法1)

Bass

寺本 忠氏 (法3)
大野 俊哉 (経2)
岡崎 敦志 (理2)
室谷 豊 (商1)
前田 英男 (生科)

平松 浩 (工3)
松原 尚人 (商2)
高田橋光政 (商2)
勝沼 亮 (経1)

☆古谷 裕之 (商3)
米道 勝 (法2)
大岩 宏 (法1)
戸田 勝浩 (文1)

☆印、パートリーダー

大阪府立大学グリークラブ

部長 山本 康義 指揮者 渋谷 太郎

Top Tenor

広瀬 貴司 (工M1)
岡本 重夫 (経4)
下谷 友二 (経2)

森 俊之 (経4)
☆浜野 克久 (工3)
田中 誠 (工2)

米崎 孝広 (工4)
津田 祐弘 (経2)
岩勇 浩 (工1)

Second Tenor

☆佃 尚彦 (工4)
中村 正富 (経4)
川口 浩司 (経1)
堀 龍市 (経1)

和田 宏志 (経4)
野口 雅弘 (工2)
盛安 雅夫 (経3)
橋本 秀夫 (経1)

渡辺 延政 (経4)
高橋 聖 (工1)
藤原 久永 (工1)
河野 朗 (工4)

Baritone

松塚 澄夫 (工4)
北谷 秀幸 (経4)
町田 信也 (工1)
大橋 弘幸 (経1)

山本 康義 (経4)
☆西下 徹 (経2)
松岡 昌広 (農1)
鈴木 博 (工1)

後藤 康弘 (経4)
羽賀 成太 (工1)
坂田 秀樹 (経1)
新井 敦夫 (農1)

Bass

渋谷 太郎 (工4)
☆北田 一路 (経4)
延広 徹 (経1)

河嶋 康夫 (工4)
藤本 昭 (工1)
平端 昭久 (経1)

川崎 博志 (工4)
西村 裕司 (経1)
吉田 誠二 (経4)

☆印、パートリーダー

MEMBER

大阪外国語大学グリークラブ

部長 村川 健一

指揮者 北村 照夫

Top Tenor

☆永谷 勉 (IPh4)	北村 照夫 (R4)	円山 望 (IPh4)	上田 茂夫 (E3)
石原 守 (E3)	内野 秀樹 (E3)	保川 一治 (M2)	中津 孝司 (R1)
大音 厚智 (S1)			

Second Tenor

堀田 光行 (F5)	☆菊 隆也 (IN4)	永山 隆 (E3)	入江 一隆 (F3)
北野 忍 (IN3)	米田 伸夫 (IN2)	梅垣 誠 (E2)	牧本 成俊 (S1)
畠 直人 (P1)			

Baritone

正木 啓 (IPu4)	☆佐戸 裕彰 (E3)	松田 博安 (IT3)	塩谷 茂樹 (M3)
藤井 芳郎 (R1)	板倉 正幸 (IN1)	黒木 寿則 (IN1)	公文 秀行 (E1)

Bass

前田 芳秀 (P4)	村川 健一 (A4)	☆上原 聡 (E3)	秋田 泰弘 (B3)
山内 清之 (F3)	秋本 仁 (DM2)	前田 哲男 (E2)	山口 伸 (D2)
谷口 善典 (E1)			

IPu: ウルドゥ語 D: ドイツ語 B: ビルマ語 DM: デンマーク語 IT: イタリア語
 IPh: ヒンディー語 R: ロシア語 E: 英語 M: モンゴル語 F: フランス語 P: ペルシャ語
 IN: インドネシア語 A: アラビア語 S: イスパニア語

☆印、パートリーダー

大阪大学男声合唱団

委員長 住友 西次

指揮者 平松 正嗣

Top Tenor

☆寺尾 敏康 (法4)	田中 徳良 (人間科4)	三浦 拓也 (医4)	熊沢 宏之 (工4)
藤岡 諭 (工4)	二宮 俊史 (基礎工3)	赤松 茂樹 (工2)	遠藤 健次 (工2)
指野 博義 (文2)	瀬部 達夫 (法2)	長田 憲一 (工2)	松本 浩昭 (経2)
枝木 秀行 (工1)	酒井 正浩 (人間科1)	中田 研 (医1)	花田 裕典 (基礎工1)

Second Tenor

☆小西 輝久 (経4)	鹿野 雅樹 (経4)	石黒 正典 (工4)	住友 西次 (法4)
青木 宏道 (工3)	中塚晃太郎 (歯3)	明渡 寛 (医2)	岩壁 靖 (基礎工2)
岡部 寛正 (理2)	岡本 卓治 (理2)	間 博頭 (工2)	古川 秀夫 (人間科2)
粉山 卓哉 (医2)	石田 斉 (工1)	井上 透 (工1)	井本 浩一 (工1)
片岡 全樹 (法1)	関根 直樹 (法1)	鳩野 逸生 (工1)	

Baritone

☆松永 滋 (工4)	田中 嘉一 (法4)	東條 茂樹 (工4)	藤原 裕士 (工4)
山田 雅朗 (経4)	土屋 正道 (理4)	小島伸一郎 (人間科3)	清水 重臣 (医3)
森口 聡 (医3)	秋山 哲也 (工2)	池田 直昭 (工2)	岩代 孝之 (人間科2)
大場 重喜 (基礎工2)	亀田 浩一 (法2)	田口 善久 (文2)	永田 明峰 (基礎工2)
岩本 修司 (基礎工1)	近藤 弘志 (理1)	下条 雅人 (理1)	宮本 和 (工1)
松本 卓也 (工1)	石堂 能成 (工1)		

Bass

☆甲和 伸樹 (工4)	石黒 信一 (基礎工4)	木口 雅史 (理4)	武岡 慶樹 (理4)
竹林 幹男 (工4)	谷川 寧彦 (経4)	原田 宗憲 (基礎工4)	平松 正嗣 (経4)
森岡 成行 (歯4)	伊藤 伸泰 (基礎工3)	岩出 斉 (工3)	大西 章平 (基礎工3)
大野 昭 (医3)	河瀬 耕 (経3)	鷲田 賢一 (経3)	駒 省二 (工2)
坂田 裕二 (文2)	藤 通昭 (理2)	藤野 大助 (基礎工2)	矢座 正昭 (経2)
板倉啓二郎 (工1)	大野 吉孝 (工1)	陰山 稔 (基礎工1)	小松 敏之 (理1)
阪本 俊生 (人間科1)	西村 吾朗 (理1)	堀 裕二 (工1)	深堀 明彦 (人間科1)
前田 秀雄 (基礎工1)	宮地 清 (基礎工1)	猿田 進 (基礎工1)	

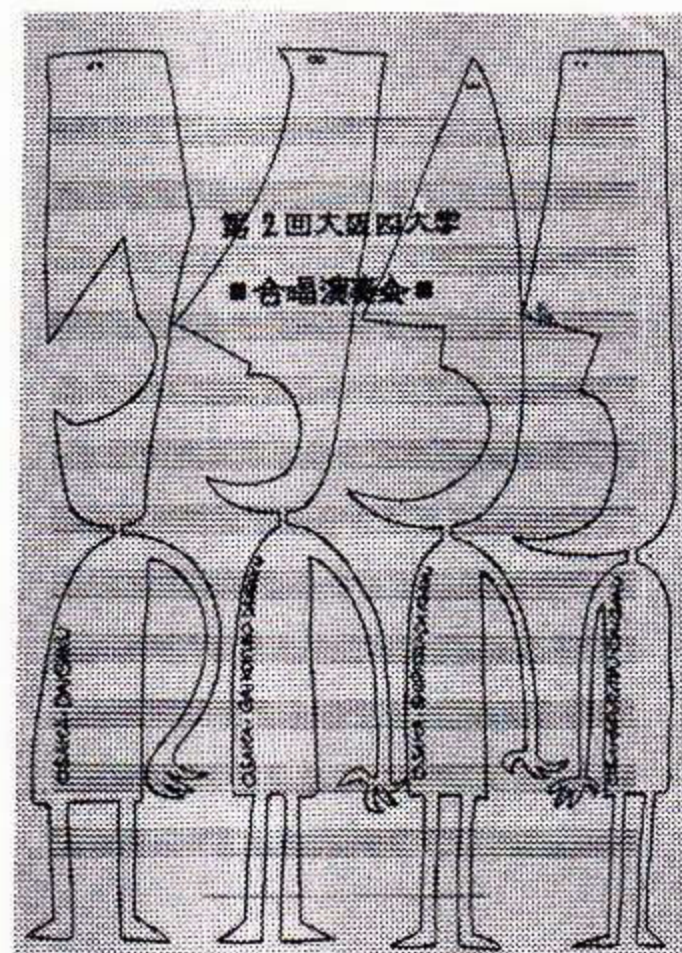
☆印、パートリーダー

大阪四大学交歓演奏会15回の歩み



第1回

- ①1962年6月19日
- ②毎日ホール
- ③小関光男
- ④「巡礼の合唱」他



第2回

- ①1963年11月12日
- ②産経ホール
- ③太田一夫
- ④「ウ・ボーイ」他

第3回

- ①1967年6月17日
- ②阪大中之島講堂
- ③
- ④

第4回

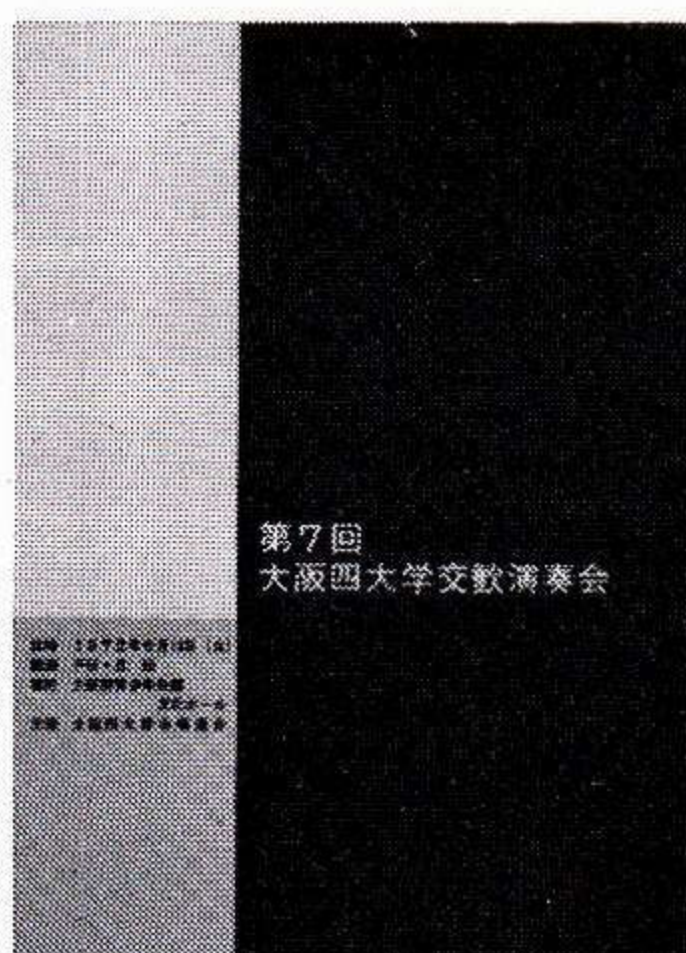
- ①1968年6月18日
- ②府立厚生会館ホール
- ③桜井吉明
- ④「Media Vita」

第5回

- ①1970年6月9日
- ②森之宮青少年会館文化ホール
- ③鹿島先生
- ④「狩人の合唱」他

第6回

- ①1971年6月
- ②大阪厚生年金会館中ホール
- ③桜井吉明
- ④ロシア民謡



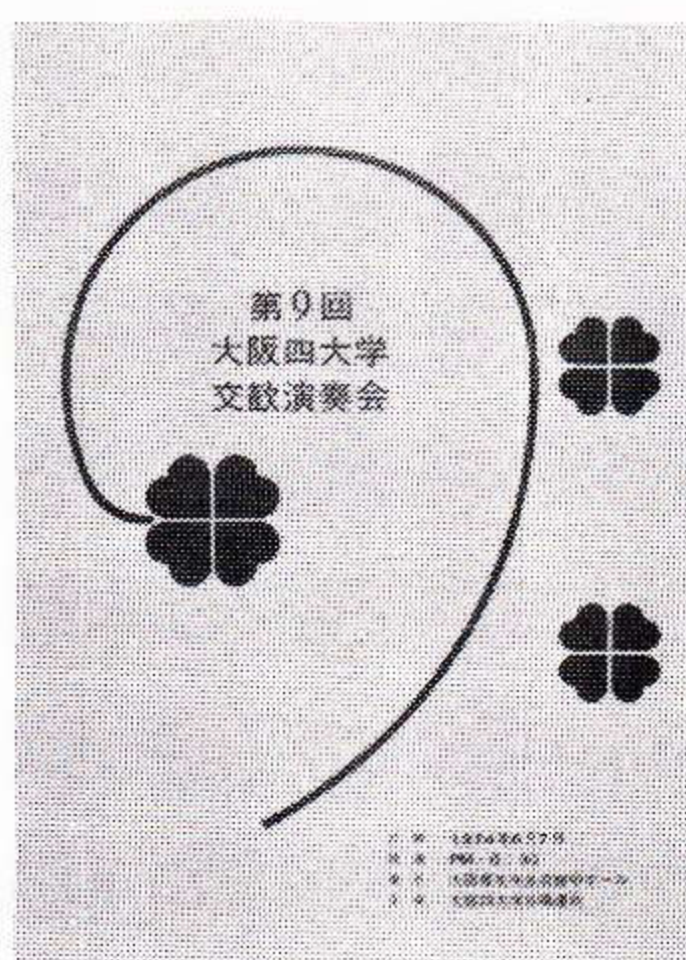
第7回

- ①1972年6月13日
- ②森之宮青少年会館文化ホール
- ③桜井吉明
- ④男声合唱組曲
「月光とピエロ」より



第8回

- ①1973年6月4日
- ②森之宮青少年会館文化ホール
- ③桜井吉明
- ④Sea Shanty より



第9回

- ①1974年6月7日
- ②大阪厚生年金会館中ホール
- ③水谷雅男
- ④「狩人の合唱」他



第10回

- ①1975年6月27日
- ②大阪厚生年金会館中ホール
- ③林 節
- ④男声合唱のためのレクイエム
「碑」

①日 時 ②場 所 ③合同曲指揮者 ④合同曲



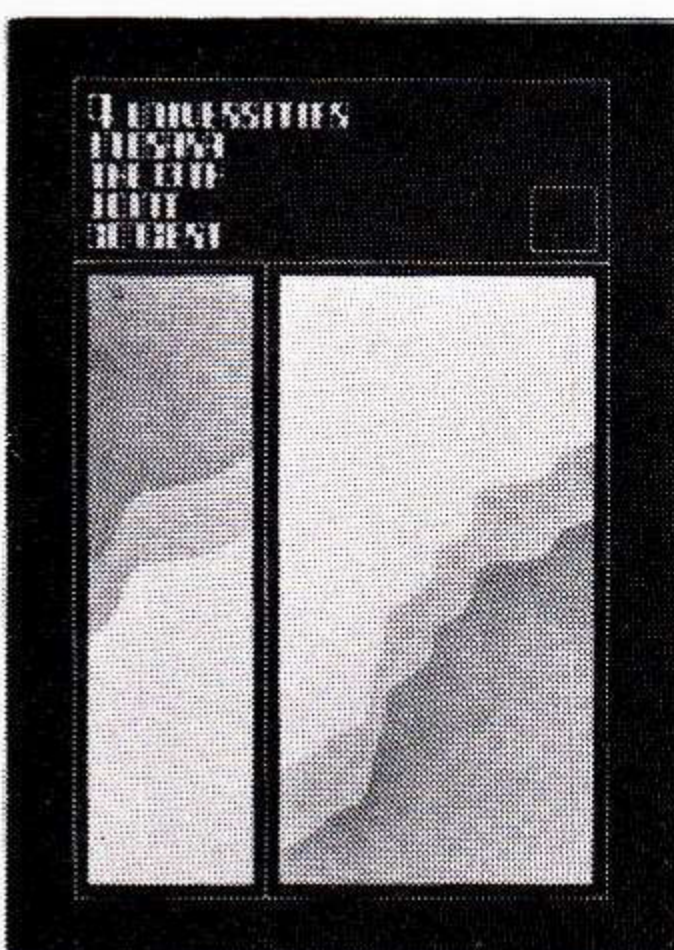
第11回

- ①1976年 6 月18日
- ②大阪厚生年金会館中ホール
- ③根津 弘
- ④男声合唱組曲「子供の国」



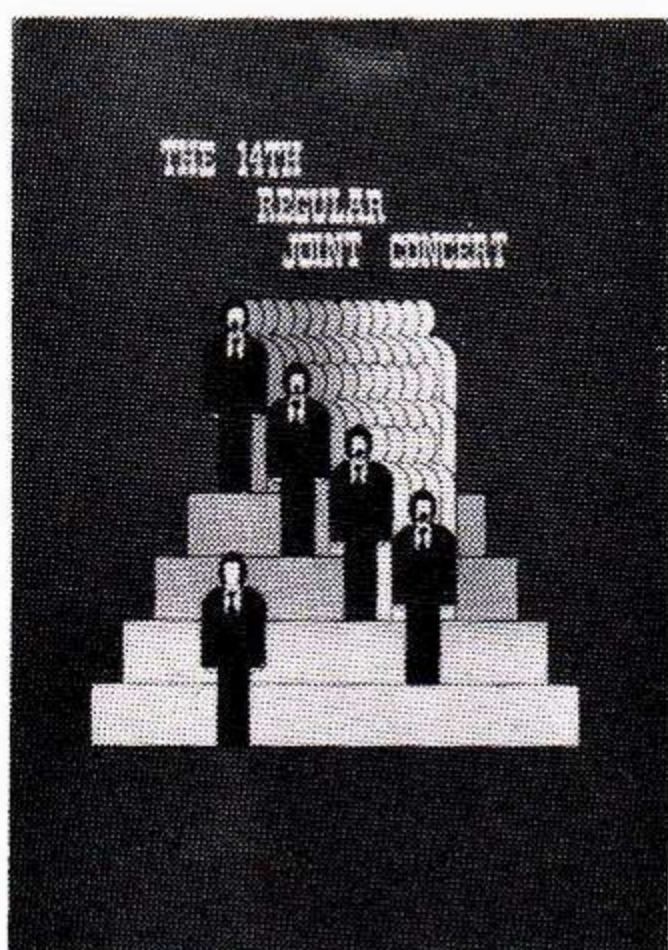
第12回

- ①1977年 6 月17日
- ②大阪厚生年金会館中ホール
- ③日下部吉彦
- ④合唱組曲「日曜日」



第13回

- ①1978年 6 月14日
- ②森之宮青少年会館文化ホール
- ③水谷雅男
- ④ソプラノと男声合唱のための
カンタータ「明日への足音」



第14回

- ①1979年 6 月14日
- ②森之宮青少年会館文化ホール
- ③林 誠
- ④男声合唱とピアノのための
「ゆうやけの歌」

〈大阪四大学合同演奏会に寄せて〉

大阪大学男声合唱団技術顧問 桜井 吉 明
第4・6・7・8回合同曲指揮者

この演奏会も15回を迎えるそうである。編集の某君が過去を調べてみると、私が一番数多く合同演奏の指揮をしているとのことで、何か一筆をとることになった。阪大男声を通じてその初期から関わりをもってきた私はよく頑張ったこの演奏会を続けてきた諸君に心から祝意と敬意を表わしたい。

4つの合唱団は全部男声合唱で同種の音楽である。一般的な意味で音楽会としては変化なく面白くない。ところが何回聴いても上手なりに、下手なりに退屈させないから妙である。4年生が卒業し、1年生が入ったばかりの6月。この時期にステージと云うのはどの大学も辛い。然し、そうした時であればこそ一つ一つの大学の伝統、個性などが露骨に現われてくるのではないだろうか。みんなヨタヨタしながら一生懸命である。未完成な状態、足りない練習にもかかわらず、大学生ならではの生真面目さ、情熱をぶちまけてくる各大学の個性の違い、それを感じさせてくれるから飽きないのかも知れない。聴いている方でそんなことを面白がっているのは申し訳ないが、私が云いたいのは毎年替わる役員会をもつ各クラブのいろいろな意味での個性が15回も合同を続けたことの過程にはさぞかし種々の困難があったであろうことは想像に難くない。しかし諸君には「共感」があった。「なにを」共感したのか。それをしっかり見極わめて欲しい。15回続いたのは今迄間違っていなかったからだと思うが、こうした原点を見つめる努力を怠ると続かなくなるかも知れない。私は今そんな不安は全く感じていないがこの演奏会を愛するが故に、いつまでも続いて欲しいと願うが故に敢えて一言した次第である。

本日の演奏会の成功を祈る。拍手



第1回演奏会

合同演奏風景

S. 37. 6. 19

毎日ホールにて

〈15回を顧みてひと言〉

昭和37年1月、環境条件の類似した、地理的に近距離にある（その後阪大、外大の移転でそうはいえなくなった。）この大阪四大学がお互いの交流を深めようという目的で、交歓演奏会を持つ事が決定されました。第1回は、同年の6月19日（火）に、毎日ホールで行なわれ、まずまずの成功のうちに終わりました。第2回は産経ホールでおこなわれましたが、11月に行なわれた為、定期演奏会との関係でスケジュール等に弊害を生じました。そして翌年に第3回がひらかれる予定だったわけですが、四大学の本質的な存り方が欠け、それによる諸問題で中断せざるを得なくなりました。

その後昭和39年の秋より、幹事会を作り四大学の存り方、運営方針等に関する討論がなされ、昭和41年の秋には「四大学は互いにその交流を深め、互いの合唱レベル向上を図り、ひいては大阪府の合唱レベルの向上に寄与す」という目的が設定され、大阪四大学合唱連合規約が作られました。（この規約は現在有名無実化している。）運営面においては、各大学委員20名からなる委員会が設置されました。（現在は各大学1名、4人より構成）

こうして四大学演奏会は、昭和42年6月17日より、再開しました。しかし昭和44年には、大学紛争のため、再び演奏会を中断してしまうことになりました。万国博がひらかれた、昭和45年から、再び四大学演奏会が始まり、その後は中断することなく、今日の第15回の演奏会をむかえることとなりました。

現在の四大学は、42年の規約の無実化にみられるように、ある面では、形式化しているのかもしれませんが、今後も39年、44年にあったような、演奏会の中断がおこらないよう四大学の交流を深めてゆきたいと思います。



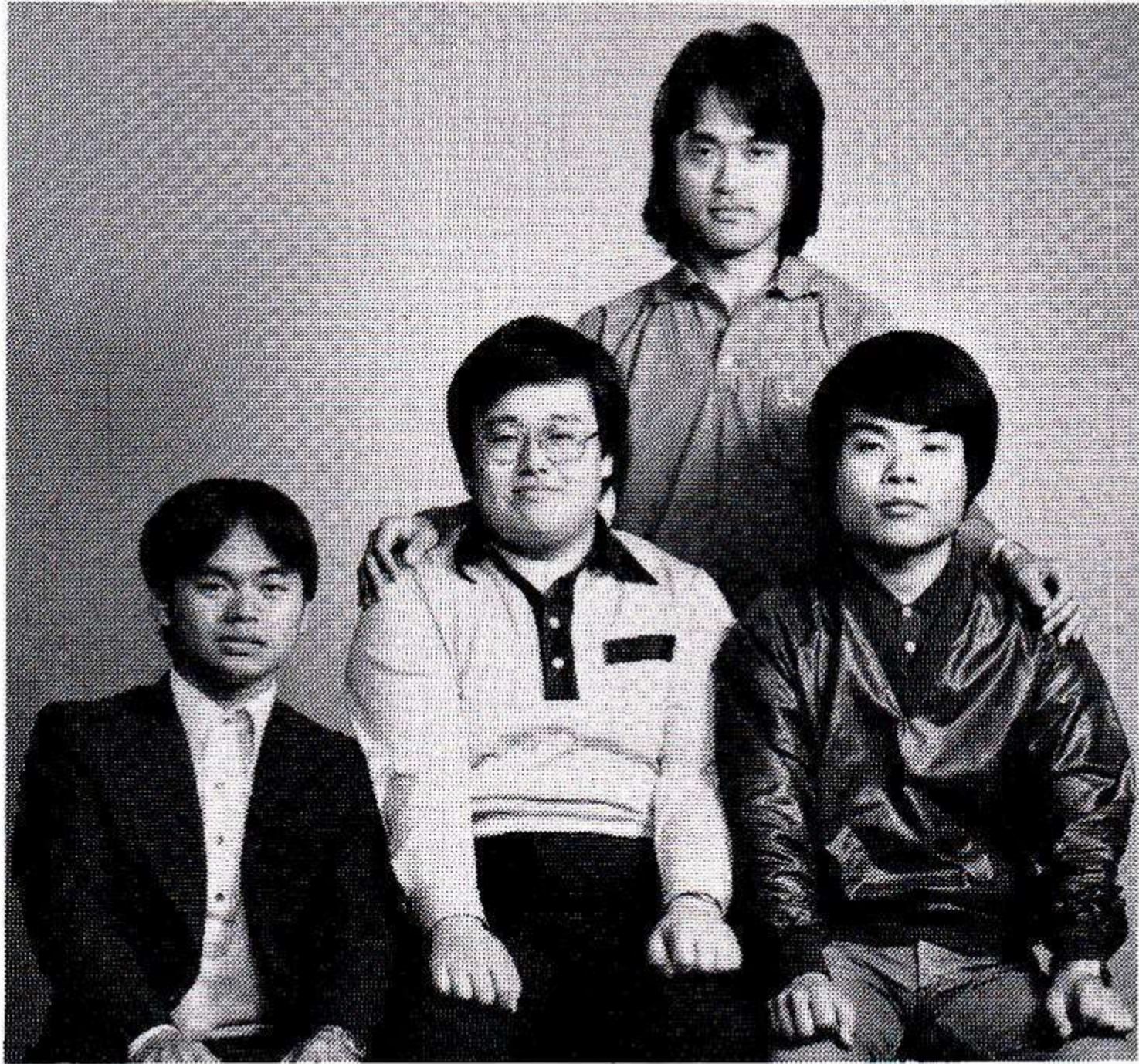
第13回合同曲

「明日への足音」練習風景

S. 53. 6月

服部ユースにて

大阪四大学合唱連合委員

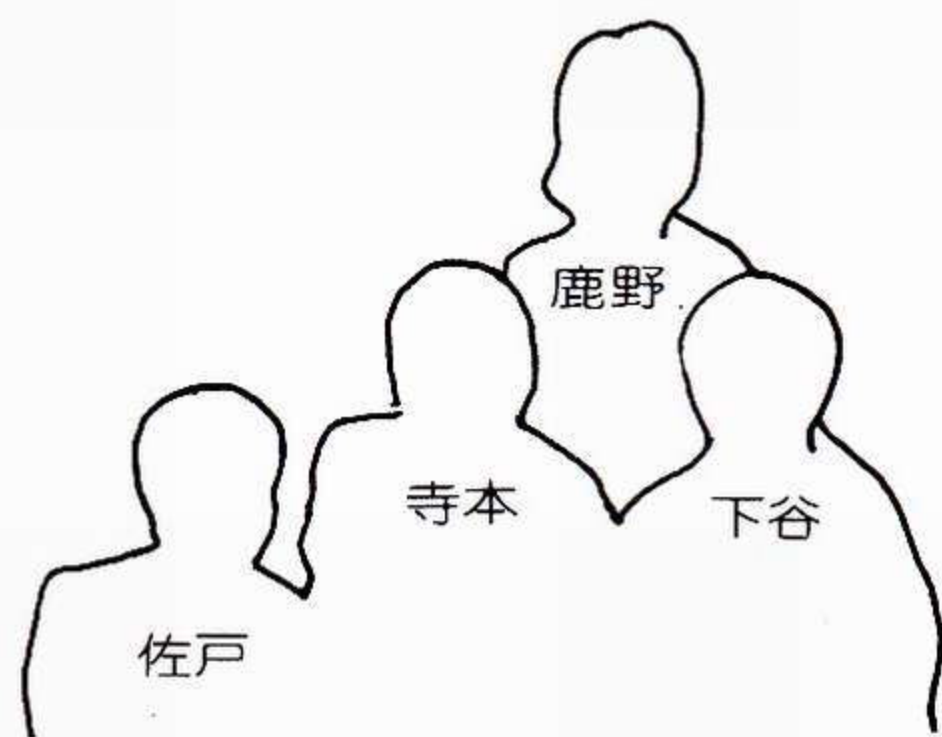


大阪市立大学 寺本 忠氏

大阪府立大学 下谷 友二

大阪外国語大学 佐戸 裕彰

大阪大学 鹿野 雅樹



各合唱団 今後の演奏スケジュール

——大阪市立大学グリークラブ——

1980年12月 第30回定期演奏会

森ノ宮ピロティホール

——大阪府立大学グリークラブ——

1980年12月 東京都立大学・大阪府立大学
第24回定期交歓演奏会

森ノ宮青少年会館

——大阪外国語大学グリークラブ——

1980年9月 奈良女子大・大阪外大ジョイントコンサート
12月 第24回定期交歓演奏会

森ノ宮ピロティホール

森ノ宮青少年会館

——大阪大学男声合唱団——

1980年11月 第7回関西六大学合唱演奏会
1981年1月 第28回定期演奏会

大阪フェスティバルホール

大阪フェスティバルホール

編集後記

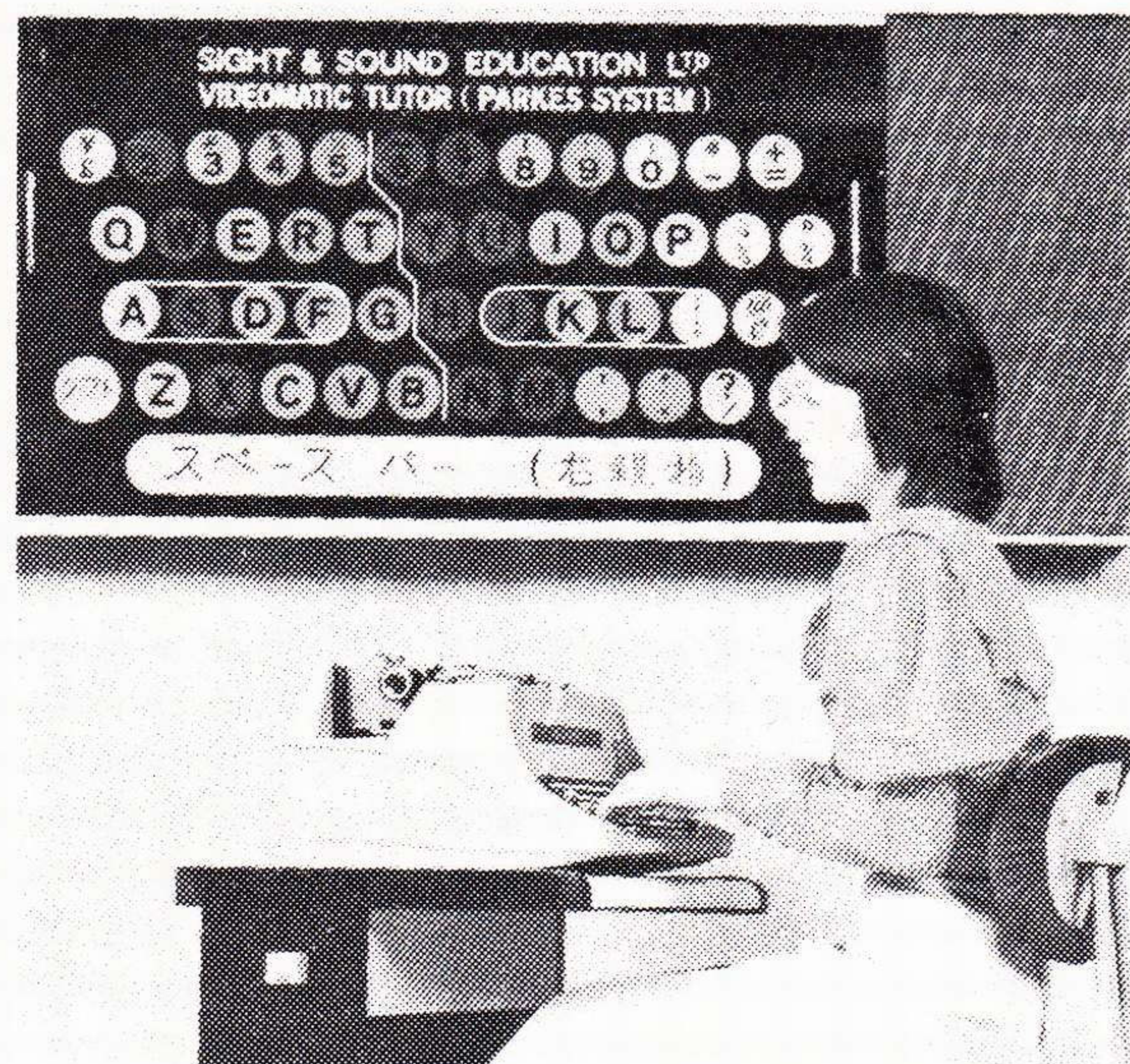
3月初旬に、初めて印刷所に出向いてから、早や3ヶ月。この四大学のコンサートも15回を迎えるということで、パンフを例年より4ページ増版しました。その4ページをどうするかで四苦八苦。結局、4連のメンバー表と15回の歩みを載せることにしました。不十分なところもあると思いますが15回の記念となれば幸いです。箕面の山奥からの印刷所通いは大変でしたが、印刷所の方々の暖かいもてなしには感謝しています。最後に原稿を寄せて下さった浅井先生、桜井先生、並びに各大学の関係者の方々、広告主の方々に心から御礼を申し上げます。

13時間で 英文タイプライプが 打てます

なぜでしょう？

英国からやってきた画期的な視聴覚システム。
従来3～6ヵ月かかったタイプライプ訓練のイメージ
をぬり変えました。光と音の楽しいプログラム
学習を1日1時間。わずか13時間で知らず知ら
ずの中に、あなたの指が英文タイプライプを覚えてし
まいます。語学力・年齢は無関係。自習もまっ
たく不要です。

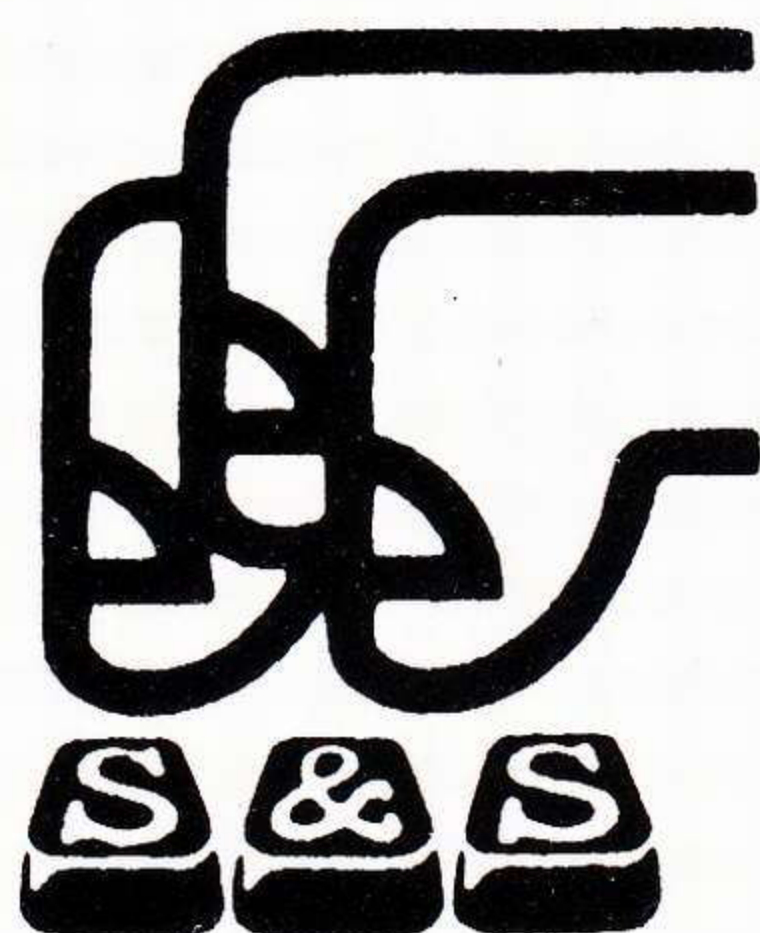
ELB ATE LTT ABE TAL UBA KCA TGA TNI ATK LAT CLA TYLL LAT REK
WOY ZENE GYXY TREV OURE VORE TSYO GNIT UORE DIST UONE VOCO



- ・お好きな時間をお選びください。13:00～19:15まで1日6回の講習があります。毎日おつづけください。(土・日・祭は休み)・コースは毎日はじまります。
- ・公開説明会にお気軽にお越しください。毎週土曜日10:30と13:30の2回。

お問い合わせ・資料請求は

PHONE(06)315-8021



サイトアンドサウンド 大阪センター

〒530 大阪市北区太融寺町8番8号 日進ビル3F

近頃 日本人の酒の飲み方が 上手になつたと 思いませんか？

同じ飲むなら、楽しく飲みたい。心から打ち
とけていて、しかも乱れず、べとつかず。節
度のある飲み方をしたい。そういえば、自分
のペースを知り、自分の飲み方を守る人が増
えてきたように思うのです。なごやかない
酒を見かける機会も多くなりました。そして、
そんな酒席で、かならずといっていいほど目
に付くのが、あのまあるいボトル。まろやか
なオールド。このウイスキーが、まんなかに
デンと置いてあるだけで、とてもいい雰囲気
になることも、もうひとつの事実のようです。



世界のウイスキー

サントリー オールド

標準的な小売価格 2,500円 製造・販売サントリー株式会社

Technics

音楽予言

"1981"

人類をオーディオルームに縛りつける時代が終る。いよいよ変わるぞ、音楽ライフ。コンサイス"1981"テクニクスから。



新発売

コンサイスコンポが動く。……………そこが音楽空間になる。音楽を空気のように呼吸する個人サイズのステレオ、コンサイス"1981"。音楽にジャストなタテ・ヨコ31.5cmのLPジャケットサイズ。持ち運べるAC/DC3電源&スピーカドッキング機構。コンサイスの思想をうけつぐ洗練のフォルムに、クォーツシンセサイザチューナ、2モータ・メタルデッキ、そして20W+20Wのパワーを使いやすく凝縮しました。あのジャケットサイズのクォーツD.D.SL-10など、プレーヤ、スピーカとの組合せも自由です。

●FM/AMステレオカセット・チューナアンプSA-C07 標準価格119,000円
●リアフェイズスピーカシステムSB-F07×2本 標準価格10,000円×2
●テクニクスコンサイス"1981"(イチ・キュー・ハチ・イチ) 組合せ合計139,000円(SA-C07+SB-F07×2) SH-S7W標準価格1,500円(2本1組)
●あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●"Dolby"およびdouble-Dシンボルはドルビー研究所の商標です。

"1981"

コンサイス

MEMBER (追加及び正誤表)

〈大阪市立大学グリークラブ〉

Second Tenor

駒田 友宏 (経 2)

Baritone

祖父江 浩之 (経 2)

〈大阪府立大学グリークラブ〉

Top Tenor

塩山 亨 (工 1)

大塚 信行 (工 1)

Baritone

島崎 武始 (経 1)

鈴木 敏一 (経 1)

〈大阪大学男声合唱団〉

Top Tenor

田中 博之 (人間科 1)

Bass

伊藤 伸泰 (基礎工 3) → 伊東 伸泰 (基礎工 3)

THE IS TH JOINT CONCERT 4 UNIVERSITIES IN OSAKA



合同演奏曲

『枯木と太陽の歌』

指揮：浅井敬壹

伴奏：山本寿太郎

大阪市立大学グリークラブ
Deutschen Messe より

大阪府立大学グリークラブ
日本民謡より

大阪外国語大学グリークラブ
Negro Spiritual より

大阪大学男声合唱団
多田武彦 作曲 男声合唱組曲
草野心平の詩から

日時 1980年 6月 18日 (水)

開演 6:30 p.m.

場所 森ノ宮ピロティホール

主催 大阪四大学合唱連盟

入場券 ¥500

(06) 380-8985

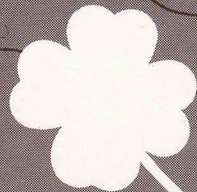
外大 佐戸まで

THE IS TH JOINT CONCERT 4 UNIVERSITIES IN OSAKA

1980. 6. 18. (Wed)

6:30 p.m.

森ノ宮ピロティホール



¥500.